



Fiery XF Cut Server 3.0 Help

© 2023 Fiery, LLC. 本書に記載されている情報は、本製品の『法律上の注意』の対象となります。

2023年11月26日

目次

Fiery XF Cut Server	5
ソフトウェアの基本要素	5
ツールバー	5
デバイスバー	6
設定バー	6
待機キュー	6
出力キュー	7
ジョブ情報エリア	7
ジョブプレビューエリア	7
数値の入力	7
スピンドボックスの使用	8
組み込み数学演算の使用	8
自動単位変換	8
割合の計算	8
比率の計算	8
単純な数学演算子	9
入力値および計算式の自動適用	9
Fiery XF Cut Server の環境設定	9
Fiery XF Cut Server の起動	10
Fiery XF Cut Server の終了	10
別のライセンス済み Fiery XF server へのログオン	11
カッター設定の操作	12
新しいカッター設定の追加	12
設定の選択	12
設定のアクティベーション	12
設定の削除	13
設定のプロパティの編集	13
ポートの変更	13
SCSI の設定	17
出力サイズ補正	17
裁断ジョブの操作	18
新規ジョブの追加	18

ツールバーのファイルメニューまたはジョブボタンを使用するジョブの追加	18
ドラッグ&ドロップ操作を使用したジョブの追加	18
ホットフォルダーを使用したジョブの追加	19
ジョブの選択	19
ジョブの保存	19
ジョブの削除	19
ジョブプロパティの設定	20
ジョブの切り取り	20
カッター間でのジョブの移動	20
ジョブのカッターへの送信	20
ジョブ裁断の中断	21
切り取りテストジョブ	21
ジョブプロパティの設定	22
ジョブのプロパティウィンドウにアクセスします。	22
レイアウトオプション	22
ワークフローオプション	23
切り取りオプション	23
カッターオプションの設定	24
バーコードの操作	26
Barcode Server の起動	26
Barcode Server の設定	26
Barcode Server の停止	26
Barcode Server の使用	27
プリント&カットデバイスの輪郭カット	28
輪郭カット用のジョブの設定	28
プリント&カットデバイスでのジョブの切り取り	28
付録	29

Fiery XF Cut Server

SAi テクノロジーを搭載した自動化ソリューションの Fiery XF Cut Server は、130 を超えるメーカーの 2,000 を超えるカッターやルーティングテーブルに対応しており、カッタータイプ別に異なるソフトウェアを作動させる手間を省けることから、時間を節約できます。

この自動化ソリューションは、サポートされているすべてのカッタータイプとモデルの裁断ワークフローを標準化します。Cut Server Option は、印刷出力と仕上げ処理を接続することで生産性を高めます。Cut Server 3.0 以降では、1 つの Cut Server Option ライセンスで最大 2 つのカットサーバーを操作できます。Cut Server Option は使いやすく、設定も簡単です。

ソフトウェアの基本要素

Fiery XF Cut Server ソフトウェアには、ツールバー、デバイスバー、設定バー、待機キュー、出力キュー、ジョブ情報エリア、ジョブプレビューエリアがあります。

ツールバー

ツールバーは、メインウィンドウの上部に配置されています。頻繁に使用する機能のツールが含まれています。

ツールバーアイコン	説明
ジョブ	選択したカッターにジョブを追加します。
送信	ジョブをカッターに送信します。
中断	選択したカッターへのジョブの送信を中断します。
削除	選択した 1 つまたは複数のジョブを削除します。
ヘルプ	『Fiery XF Cut Server Help』を開きます。
データリンク	カッターが Barcode ワークフローをサポートしている場合、Barcode Server を起動/停止し、維持することができます。

デバイスバー

デバイスバーには、現在設定されているすべてのデバイスとその接続が表示されます。デバイスと接続を追加または削除したり、特定の cutter の接続を変更したりできます。

設定バー

設定バーには、現在の設定が表示されます。各 cutter について、特定の裁断設定がここで設定されます。矢印をクリックして設定オプションにアクセスします。

設定オプション	説明
ジョブの追加	現在の設定に切り取りジョブを追加します
Barcode Server の起動 Barcode Server の停止	サーバー状況に応じて Barcode Server を起動または停止します
cutter で Barcode を読み取り始めます	cutter に Barcode を読み取るリクエストを送信します
設定のプロパティ	現在の設定を変更できます
デフォルトのジョブのプロパティ	受診する裁断ジョブのデフォルトプロパティを設定します
設定の複製	現在の設定を複製します
アクティブにする	現在の設定をアクティブに設定します
出力サイズ補正	裁断ジョブの設定サイズ補正
テストカット	テスト用に基本的な裁断ジョブを cutter に送信します

待機キュー

待機キューには、追加ジョブのリストが表示されます。ジョブが待機キューにある間は、ジョブのプロパティを表示および変更できます。ジョブ裁断の準備ができれば、待機キューから出力キューにドラッグできます。

ジョブのプロパティを含むその他のオプションについては、待機キューのジョブを右クリックします。

ジョブのプロパティウィンドウのワークフロータブで出力後オプションが待機に設定されているジョブは、削除されず、裁断後に待機キューに戻ります。

出力キュー

出力キューには、カッターに現在送信されているジョブとその状況のリストが表示されます。

ジョブ情報エリア

ジョブ情報エリアには、選択した設定に関連するジョブが表示されます。

ジョブ情報	説明
ジョブ名	ジョブの名前
設定	リストアップされているジョブの現在の設定名。
送信者	送信者フィールドは、次の内容で構成されています。 <ul style="list-style-type: none">• Fiery XF server がインストールされているコンピューターの名前• Fiery XF ワークフローの名前• 一意のジョブ ID• 現在のページ番号• ジョブを送信した Fiery XF ユーザーの名前
日付	ジョブの日付
タイプ	ジョブの種類
部数	印刷部数
サイズ	ジョブの物理的な寸法
出力後	出力後のジョブの処理内容をリストアップします
解像度	裁断に使用するカッターのセンチメートルあたりのステップ数
パス	Cut Server 内のジョブの場所
Barcode ID	切り取りジョブで使用される Barcode ID

ジョブプレビューエリア

ジョブプレビューエリアには、切り取りジョブのプレビューと切り取り方向が表示されます。

数値の入力

Fiery XF Cut Server ソフトウェアには、数値の入力が簡素化できる独自の機能が多く備わっています。

スピンドボックスの使用

スピナーコントロールを使用し、上下の矢印をクリックして値を増減することができます。キーボードの上下矢印キーを使用して、同じ効果を得ることができます。

組み込み数学演算の使用

Fiery XF Cut Server ソフトウェアは、数値を入力するたびに複数の計算を実行できます。

自動単位変換

デフォルト以外の単位を使用して値を入力すると、ソフトウェアは自動的にデフォルトの単位に値を変換します。

たとえば、デフォルトの単位がインチであれば、1 フィートと入力すれば 12 インチに変換されます。

測定単位	定義
in、"	インチ
ft、'	フィート
mm	ミリ
cm	センチメートル
m	メートル
pt	ポイント

割合の計算

A:B の形式で割合を入力すると、ソフトウェアはフィールドに保存されている値をその割合に応じて拡大縮小します。

たとえば、フィールドの値が 12 に設定されていて、2:3 の割合を入力すると、新しく 8 という値が表示されます。

比率の計算

X%の形式で比率を入力すると、ソフトウェアはフィールドに保存されている値をその比率に応じて拡大縮小します。

たとえば、フィールドの値が 10 に設定されていて、90%を入力すると、新しく 9 という値が表示されます。

単純な数学演算子

単純な数学演算子を入力すると、ソフトウェアはその式を計算し、結果の値をフィールドに入力します。使用可能な数学演算子は優先順位の高い順に次の通りです。

演算子	説明
/	除算 (割り算)
*	乗算 (掛け算)
+	加算 (足し算)
-	減算 (引き算)

たとえば、1/8 と入力すると、0.125 という値が算出されます。

複数の演算が指定されている場合は、演算子の優先順位により、計算処理の順序が決定されます。演算子は、表の演算子の優先順位に従って上から順に記載されています。たとえば、6/2*3 と入力すると、6/2 が最初に処理され、その計算結果が3で乗算され、9 という値が算出されます。

入力値および計算式の自動適用

数値フィールドに数値、比率、数式を入力後、しばらくするとソフトウェアが自動的にその値を適用します。また、TAB キーを押して、その値を直ちに適用することもできます。Enter キーを押すと、OK ボタンが起動し、ウィンドウが閉じてしまうので避けてください。

Fiery XF Cut Server の環境設定

編集メニューからアプリケーションの環境設定を行うには、環境設定を選択します。

1 表に示すパラメーターの1つまたはすべてを調整します。

パラメーター	説明
単位	表示する測定単位を指定します。
精度	裁断に使用する精度を指定します。
パスのアーカイブ保存	保存されたアーカイブジョブのフォルダーを指定します。
形式のアーカイブ保存	アーカイブジョブのフォルダーを指定します。
	オリジナルジョブ

パラメーター	説明	
	ネイティブジョブ	印刷データをカッターの出力形式 (*.plt ファイル形式) でアーカイブ保存します。 プレビュー情報は使用できません。
ファイルパス	ジョブと一時ファイルのフォルダを設定します。	
	ジョブ	ジョブファイルを保存するフォルダ一。
	一時ファイル	ジョブの処理中に作成される一時ファイルのフォルダ。
ホットフォルダー	Fiery XF server から切り取りデータを受信するフォルダを定義します。	

メモ： Fiery XF Cut Server と Fiery XF server が異なるコンピュータで実行されている場合は、Fiery XF server で切り取りジョブのホットフォルダを設定することをお勧めします。これは、Fiery XF server がサービスとして実行され、Fiery XF Cut Server 上のローカルホットフォルダへの書き込みアクセス権を持っていない可能性があるためです。

- 2 OK をクリックして保存します。

Fiery XF Cut Server の起動

- 1 次のいずれかを行って、次の操作を開始します。Fiery XF Cut Server
 - プログラムグループから開始 Fiery XF Cut Server します。
 - デスクトップで Fiery XF Cut Server クライアントのアイコンをダブルクリックします。
- 2 特定のライセンスのある Fiery XF server にログオンするには、リストから IP アドレスを選択し、IP アドレスを手動で入力するか、または Fiery XF server と Fiery XF Cut Server が同じコンピュータにある場合には localhost を入力します。

メモ：

- Fiery XF server を Fiery XF Cut Server に接続するには、Fiery XF server が実行中でなければならず、かつ Cut Server Option が有効である必要があります。Cut Server Option が存在しない、または Fiery XF server がダウンしている場合は、接続時にエラーメッセージが表示されます。
- Fiery XF Cut Server 3.0 以降は、Fiery XF 8.0 以降の Fiery XF server にのみ接続できます。それ以前のバージョンの Fiery XF Cut Server は、Fiery XF 8.0 との互換性がありません。

Fiery XF Cut Server の終了

- 次のいずれかを行って、**Fiery XF Cut Server** を終了します。
 - ファイル > 終了をクリックします。
 - タイトルバーの右上角の閉じるボタンをクリックします。
 - 通知エリアのソフトウェアアイコンを右クリックし、メニューの閉じるを選択します。

別のライセンス済み Fiery XF server へのログオン

- 1 ファイルメニューから、再ログインを選択します。
- 2 Fiery XF Cut Server ログインウィンドウで、リストから IP アドレスを選択し、**選択**をクリックします。
IP アドレスがリストにない場合は、手動でフィールドに入力できます。

カッター設定の操作

設定により、ソフトウェアとカッターの間にリンクが提供されます。

各設定には、次の情報が含まれます。

- 使用するカッターの種類。
- カッターとの通信方法

Fiery XF Cut Server は 2 つの異なる設定を同時に使用できます。各カッターに設定が複数できるのは、異なる目的で各設定を使用できるようにするためです。

新しいカッター設定の追加

- 1 設定メニューから設定の追加を選択します。
- 2 リストからカッターの製造元とモデル名を選択し、次へをクリックします。
- 3 新しいカッター設定の名前を入力します。
- 4 カッターが通信に使用する接続を設定します。
必要に応じて、選択した接続の設定を編集します。詳細については、[ポートの変更](#)（13 ページ）を参照してください。
- 5 完了をクリックします。

設定の選択

- 設定を選択するには、設定エリアのアイコンを強調表示します。
一度に選択できるカッターは 1 つだけです

設定のアクティベーション

アクティブな設定とは、ジョブを切り取る準備ができています。

- 設定エリアの**設定アイコン**を選択し、次のいずれかを実行して設定をアクティベートします。
 - アイコンの横にあるボックスを選択します。
 - **設定 > アクティブにする**をクリックします。
 - 右クリックして、メニューの**アクティブにする**を選択します。

設定の削除

- 設定エリアの**設定アイコン**を選択し、次のいずれかを実行して設定を削除します。
 - **編集 > 削除**をクリックします。
 - ツールバーの**削除ボタン**をクリックします。
 - 削除キーを押します。
 - 右クリックして、メニューの**削除**を選択します。
- メモ：**設定を削除すると、デバイス設定に割り当てられたすべてのジョブも削除されます。

設定のプロパティの編集

- 設定エリアの**設定アイコン**を選択し、次のいずれかを実行して設定のプロパティを変更します。
 - **設定 > 設定の設定**をクリックします。
 - 右クリックして、メニューから**設定のプロパティ**を選択します。

ポートの変更

ポートの変更ウィンドウの設定により、カッターへの接続に使用するポートを変更できます。

使用可能なポートリストからカッターのポートを選択できます。このリストには、使用しているカッターで利用可能なコンピューターのポートのみが含まれます。

デフォルトではカッターの標準ポートが選択されますが、一部のポート設定の入力または編集が必要な場合があります。

1 設定エリアでカッターを選択し、次のいずれかを行ってポートを変更します。

- 設定 > ポートの変更をクリックします。
- 右クリックして、メニューからポートの変更を選択します。

使用可能なポート	説明		
Lpt	パラレルポートは、カッターをコンピュータに接続する最も一般的な方法です。 次のパラメータを調整します。		
	送信バッファ	送信バッファのサイズ (単位: バイト)	
	送信前のポート状態の確認	選択した場合、ソフトウェアはジョブの切り取りを開始する前に、カッターにデータパケットを送信し、カッターが接続されているかどうかをテストします。	
	標準 LPT ドライバーの使用	可能な限り、ソフトウェアはカスタム LPT ドライバーを使用し、LPT ポートの性能を向上させます。 選択した場合、ソフトウェアは Windows 標準の LPT ドライバーを使用します。性能は低下しますが、信頼性は向上する場合があります。 カスタム LPT ドライバーの使用時には、次の設定が有効になります。	
	モード	ECP (Enhanced Capabilities Mode: 拡張機能モード) は、可能な限り最速の送信速度を実現するために使用します。EPP (Enhanced Parallel Port: エンハンスドパラレルポート) は、ECP ほど高速ではありませんが、互換性は向上する場合があります。	
	DMA	ECP で DMA を使用すると、最大ビットレートを 2 Mbps から 4 Mbps に増加できます。	
TCP/IP	デバイスがビジー状態の場合の中断	確認されると、カッターがビジー状態の間、ソフトウェアはカスタム LPT ドライバーが使用する余分なシステムリソースを解放します。これにより、すべての性能が向上することがあります。	
	TCP/IP アドレス	カッターの TCP/IP アドレス (必須)。	
	ポート番号	カッターに使用するポート番号。リストから選択するか、カスタムポート番号を入力します。	
USB	USB ドライバーには対応するカッターが同梱されています。これらのポートを使用する際は、適切なドライバーがインストールされていることを確認してください。		

使用可能なポート	説明		
USBPIA	USB-to-パラレルアダプターを使用するカッターの平行ポートに接続している場合は、このポートを使用します。		
USBSerial	USB-to-シリアルアダプターを使用するカッターの平行ポートに接続している場合は、このポートを使用します。このポートを使用する際は、適切なドライバがインストールされていることを確認してください。		
FireWire	FireWire ドライバーには対応するカッターが同梱されています。これらのポートを使用する際は、適切なドライバがインストールされていることを確認してください。		
LPR	一部のネットワークデバイスでは、TCP/IP は使用できず、LPR プロトコルのみが使用可能な場合があります。		
	ホスト名または IP アドレス	カッターに割り当てられたホスト名または IP アドレス（必須）。	
	カッター/キューの名前	カッターによっては、PR1 などのカッター名が使われる場合と、UNIX プリントキューへのパスが使われる場合があります。 一般的なプリンタ名については、FTP リストを参照してください。	
FTP	ネットワークに直接接続するカッターは FTP プロトコルをサポートできるため、FTP 経由でカッターに切り取りデータを送信できます。		
	ホスト名または IP アドレス	カッターに割り当てられたホスト名または IP アドレス。	
	プリンタ/キューの名前	カッターによっては、pr1 などのカッター名が使われる場合と、UNIX プリントキューへのパスが使われる場合があります。 一般的なプリンタ名は次の通りです。	
		Axis	pr1、pr2、pr3
		キヤノン 6200 および 7200	Z
		キヤノン 8200	LP
		ホーキング	lp1、lp2、lp3
HP JetDirect EX	raw		

使用可能なポート	説明	
	HP JetDirect EX Plus 3	raw1、raw2、raw3
	HP JetDirect 600N	ポート 1
	Intel Netport Express 10/100	LPT1_PASSTHRU
	Intel Netport Express Pro	LPT1_PASSTHRU LPT2_PASSTHRU COM1_PASSTHRU
	Linksys	P1、P2、P3
FILE	<p>ファイルポートは、裁断データをファイルとして保存できます。 次の設定が使用可能です。</p>	
	各ファイルのファイルパスのプロンプト	このオプションを選択した場合、各ジョブのファイルへの保存時に出力ファイルのファイル名を入力するよう求められます。
	カスタム拡張子の使用	このオプションを選択した場合、出力ファイルに使用するファイル拡張子を空欄に入力します。
	デフォルトの場所	出力ファイルに使用するデフォルトのフォルダー参照をクリックして、フォルダーを選択します。
SCSI	<p>カッターが SCSI 接続をサポートする場合、このポートを使用します。詳細は、SCSI の設定 (17 ページ)を参照してください。</p>	
フォルダー	<p>カッター固有の命名規則を使用して、指定されたフォルダー内のファイルに出力します。</p>	
COM	<p>これはシリアル通信ポートです。 秒あたりのビット数、データビット、パリティ、ストップビット、ハードウェアまたはソフトウェアのフロー制御などの標準シリアルポートの制御に加えて、次のワイヤーを有効または無効にするチェックボックスがあります。</p>	
	DTR	Data Terminal Ready (データ端末レディ)
	DSR	Data Set Ready (データセットレディ)
	RTS	Request To Send (送信リクエスト)
	CTS	Clear To Send (送信可)

使用可能なポート	説明	
	DCD	Data Carrier Detect (データキャリア検出)

- 適用をクリックして保存し、OK をクリックして閉じます。

SCSI の設定

- SCSI デバイスにポートを設定します。
SCSI デバイスがリストにない場合は、次のいずれかを行います。
 - 追加をクリックして、カスタム SCSI デバイスを指定します。
 - カスタムデバイス名フィールドに SCSI デバイス名を入力します。
 - SCSI バス ID フィールドに SCSI アダプタのバス ID を入力します。
 - SCSI アダプター ID フィールドに SCSI アダプターの SCSI ID を入力します。
 - SCSI ターゲット ID フィールドにカッターの SCSI ID 番号を入力します。
- OK をクリックします。

出力サイズ補正

出力サイズ補正により、出力サイズのわずかな変化を測定し、補正することができます。

出力サイズ補正はカッターの設定ごとに個別に設定する必要があります。出力サイズ補正はジョブのプロパティウィンドウに表示されるジョブサイズに影響を及ぼしません。

- 出力サイズ圧縮を設定するには、次のいずれかを行います。
 - 設定 > 出力サイズ圧縮をクリックします。
 - 設定バーで、カッター設定のいずれかを右クリックするか、設定名の横にある三角印をクリックして出力サイズ圧縮をクリックします。
- テストサイズで、印刷済みジョブの幅と長さを入力します。
- ジョブの印刷済みサイズを測定し、測定されたサイズフィールドに幅と長さを入力します。
- 出力サイズ補正を有効にするチェックボックスを選択すると、測定結果から得られた補正係数を使用して、この設定から今後の切り取りをすべて自動的に拡大縮小します。
ソフトウェアは出力サイズを拡大縮小する補正係数を自動的に計算し、テストサイズと測定済みサイズの間の差分を補正します。
- OK をクリックします。

裁断ジョブの操作

ジョブが Fiery XF Cut Server キューにある間は、追加、削除、プロパティの変更が可能です。

新規ジョブの追加

いくつかの方法で Fiery XF Cut Server へジョブを送信できます。

ジョブは次の方法でアプリケーションに追加できます。

- ファイルメニューから
- ツールバーのジョブボタン
- ドラッグ&ドロップ操作の使用
- ホットフォルダーの使用

ツールバーのファイルメニューまたはジョブボタンを使用するジョブの追加

1 ジョブを追加するには、次のいずれかの方法を実行します。

- ファイル > ジョブの追加をクリックします。
- ツールバーでジョブをクリックします。

2 追加するファイルを選択します。

3 (オプション) ファイルをローカルジョブフォルダーにコピーするには、ジョブフォルダーにコピーチェックボックスを選択します。

メモ: ジョブが USB フラッシュドライブまたはネットワークドライブにある場合、ローカルフォルダにコピーすることで、USB フラッシュドライブの取り外し後またはネットワークからの切断後でもジョブを処理できます。

4 追加をクリックします。

サポートされているファイル形式の一覧については、[付録](#) (29 ページ) を参照してください。

ドラッグ&ドロップ操作を使用したジョブの追加

ファイルを Fiery XF Cut Server アプリケーションにドラッグすると、ファイルは切り取りジョブとして自動的に追加されます。このファイルは、サポートされている種類のものでなければなりません ([付録](#) (29 ページ) を参照)。

使用する設定を指定するには、設定バーの適切なカッター設定上にファイルをドラッグ&ドロップします。ジョブに待機状況が割り当てられます。

ホットフォルダーを使用したジョブの追加

ホットフォルダーを使用して、Fiery XF Cut Server アプリケーションにジョブを追加できます。Fiery XF Cut Server はホットフォルダーをモニタリングする必要があります。ホットフォルダーの場所は Fiery XF Cut Server 環境設定で指定できます（編集 > 環境設定をクリック）。詳細は、[Fiery XF Cut Server の環境設定（9 ページ）](#)を参照してください。

メモ：Fiery XF server と Fiery XF Cut Server が異なるコンピューターで実行されている場合は、Fiery XF server が Fiery XF server コンピューターに裁断ファイルをローカルに書き込み、Fiery XF Cut Server はマップされたネットワークドライブまたは UNC パスをホットフォルダーとして使用していることを確認します。Fiery XF server はログインユーザーと同じ権利がないサービスですが、Fiery XF Cut Server はログインユーザーのログイン情報を使用して実行するアプリケーションです。

ジョブの選択

一度に複数のジョブを選択することができます。

- 複数のジョブを選択するには、次のいずれかを行います。
 - Ctrl キーを押すことで複数のジョブを個別に選択できます。
 - ジョブの範囲を選択するには、範囲の最初と最後のジョブを Shift キーを押しながらクリックします。
 - すべてのジョブを選択するには、編集 > すべて選択をクリックします。

ジョブの保存

ジョブはネイティブ形式または元の形式で保存できます。

- 1 ジョブエリアで保存するジョブファイルを選択し、次のいずれかを行います。
 - ファイル > 保存をクリックします。
 - ツールバーのジョブの矢印をクリックし、別名保存をクリックします。
- 2 ファイル名を入力し、形式（ネイティブまたはオリジナル）を選択して、保存をクリックします。

ジョブの削除

- ジョブを選択し、次のいずれかを行います。
 - 削除キーまたはバックスペースキーを押します。
 - **編集** > 削除をクリックします。
 - ツールバーの削除ボタンをクリックします。
 - 右クリックして、メニューの削除を選択します。

ジョブプロパティの設定

ジョブのプロパティウィンドウでは、ジョブの切り取り方法を制御する設定を編集できます。詳細は、[ジョブプロパティの設定](#) (22 ページ) を参照してください。

ジョブの切り取り

Fiery XF Cut Server が受信した後のジョブをカッターに送信できます。

カッター間でのジョブの移動

あるカッターから別のカッターにジョブを移動できます。

- ジョブを選択し、次のいずれかを行います。
 - **ファイル** > **ジョブの移動**をクリックし、新しいカッター設定を選択して、**OK** をクリックします。
 - ツールバーのジョブ矢印をクリックし、**ジョブの移動**をクリックし、新しいカッター設定を選択して、**OK** をクリックします。
 - ジョブをクリックして、**設定バー**の新しいカッター設定にドラッグします。

ジョブのカッターへの送信

- 待機キューからジョブを選択し、次のいずれかを行います。
 - **ファイル** > **送信**をクリックします。
 - ツールバーの**新規**をクリックします。
 - ジョブを右クリックして、メニューから**送信**を選択します。

ジョブ裁断の中断

- 出力キューからジョブを選択し、次のいずれかを行います。
 - ファイル>中断をクリックします。
 - ツールバーで、中断をクリックします。
 - ジョブを右クリックして、メニューから中断を選択します。

切り取りテストジョブ

Fiery XF Cut Server を使用すると、切り取りテストジョブを適切なカッターに送信できます。

- 1 テストジョブのカッター設定を選択します。
- 2 設定>テストカットをクリックします。

ジョブプロパティの設定

ジョブのプロパティウィンドウでは、ジョブの裁断方法を制御する設定を編集できます。

ジョブのプロパティウィンドウにアクセスします。

1 ジョブを選択し、次のいずれかを行います。

- ファイル > ジョブのプロパティをクリックします。
- ツールバーのジョブの矢印をクリックし、ジョブのプロパティをクリックします。
- ジョブを右クリックして、メニューからジョブのプロパティを選択します。
- ジョブをダブルクリックします。

ジョブのプロパティウィンドウのレイアウト、ワークフロー、切り取りの各タブでジョブのプロパティを設定できます。

2 適用をクリックして保存し、OK をクリックして閉じます。

レイアウトオプション

レイアウトタブは、用紙上のジョブの位置、仕上がった用紙サイズ、用紙レイアウトを制御します。

メモ: ジョブのプロパティウィンドウで使用可能な設定は、カッターによって異なります。次の表のレイアウトオプションは例です。

オプション	説明
用紙サイズ	カッターにロードされた用紙サイズプリセットサイズのいずれかを選択するか、カスタム用紙サイズを指定します。カスタムサイズを指定すると、プリセット用紙サイズリストに自動的に追加されます。
	用紙の幅および高さ
	印刷可能範囲のマージン
	これらの設定により、用紙上でジョブの位置が変更されます。
位置	ジョブと印刷可能範囲の右マージンおよび下マージンの間隔。

ワークフローオプション

ワークフロータブはジョブ印刷後オプションに関連する設定を表示します。

メモ: ジョブのプロパティウィンドウで使用可能な設定は、カッターによって異なります。次の表のワークフローオプションは例です。

オプション	説明	
出力後	切り取り後のジョブの処理を指定します。	
	削除	切り取り後、出力キューからジョブを削除します。
	待機	切り取り後、待機キューにジョブを配置します。

切り取りオプション

カットタブは、プリント & カットデバイスまたはカッターで出力されたジョブについてのみ表示されます。裁断に関する設定を指定できます。

メモ: ジョブのプロパティウィンドウで使用可能な設定は、カッターによって異なります。次の表の切り取りオプションは例です。

オプション	説明
解像度	カッターの解像度を設定します。デフォルト値は、最適な結果が得られるように設定されています。この値は、切り取りに問題（切り取りサイズが指定サイズと一致しない）がない限り変更しないでください。
パス	ブレードが各ラインの上を移動する回数を指定します。
プロット後に用紙を送る	切り取り後に用紙を進め、切り取り後に原点に戻るよう選択します。
コマンドの送信	カッターの内部曲線処理をアクティブにします。
ナイフオフセット	ナイフオフセットのカスタム値を入力する場合に選択します。 カッターとしてペンプロッタを使用している場合のみ、この値を変更してください。

オプション	説明
パケットサイズ	<p>カッターに送信されたパケットサイズを指定する場合に選択します。</p> <p>この設定は、限られたカッターでしか使用されず、必要でない限り変更しないでください。</p>
曲線の品質	<p>曲線と直線との間の最大の許容スペースを設定することで、曲線の精度を指定します。高品質な曲線ほど多くの直線が必要となり、プロットファイルサイズが大きくなり、裁断時間も長くなります。デフォルトは、最適な結果が得られるように設定されています。</p> <p>曲線品質の設定は、次の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 高 • 低
カッターオプション	カッターオプションウィンドウを表示します。
リセット	デフォルト設定を復元します。

カッターオプションの設定

デフォルトのジョブのプロパティのカッターオプションウィンドウでは、裁断速度や裁断圧力など、カッターの動作パラメーターを制御したり、コンピューターから前方にロール、後方にロール、原点に戻るなどの一般的なタスクを実行できます。

各コマンドは有効または無効にできます。コマンドを選択すると、値を変更することができ、その値はカッターの設定を上書きしてカッターに送信されます。コマンドチェックボックスをオフにすると、カッターの設定が使用されます。

メモ:カッターオプションウィンドウで使用可能な設定は、カッターによって異なります。次の表のコマンドとオプションは例です。

表 1: カッターオプションウィンドウのコマンド

オプション	説明
削除	<p>リストから選択したコマンドを削除します。</p> <p>保存コマンドで追加したコマンドだけが削除可能です。</p>
保存	変更内容を新しいコマンドとして保存します。

オプション	説明
リセット	すべての設定をデフォルト設定に戻します。 ユーザーが追加したカスタムコマンドはすべて削除されます。

表 2: カッターオプションウィンドウタブ

タブ	説明	
ジョブ印刷前	ジョブを処理する前に送信するコマンドを定義します。	
	高速カット 中 遅い なし	高速、中速、低速の裁断速度の一連の設定を定義します。 カッターの設定のみを使用する場合は、なしを選択します。
	圧力 強制	ナイフの圧力を定義します。
	速度	ヘッドの走行速度を定義します。
	ツール	複数のツールが使用可能な場合にツールを定義したり、裁断とプロットを切り替えたりします。
ジョブ印刷後	ジョブを処理した後に送信するコマンドを定義します。	
	切り取り用紙 自動カット	裁断またはプロット後にメディアを裁断するかどうかを設定します。
マクロ	カッターのコントロールパネルから、通常必要とされる一般的なタスクを実行できるようにします。	
	初期化	カッターを初期化します。
	前方にロール 後方にロール	用紙を前方または後方にロールします。
	原点へ移動	ヘッドを原点に移動します。

⚠ 警告 マクロを送信する際、カッターの周囲に誰もいないことを確認してください。カッターが作動してオペレータが負傷するおそれがあります。

バーコードの操作

カッターがバーコードに対応している場合は、Fiery XF Cut Server ジョブの検出ができ、自動的にカッターに送信されます。関連する Barcode Server またはデータリンクサーバーは、Fiery XF Cut Server で起動できます。

Barcode Server の起動

カッターがバーコードを使用した自動ファイル検出をサポートしている場合は、Barcode Server 次のいずれかの方法で Fiery XF Cut Server データリンクサーバーを起動できます。

- 次のいずれかを行います。
 - 設定メニューで、Barcode Server の起動またはデータリンクサーバーの起動をクリックします。
 - バーの設定で、カッター設定のいずれかを右クリックするか、設定名の横にある矢印をクリックして Barcode Server の起動またはデータリンクサーバーの起動をクリックします。
 - ツールバーから、データリンクをクリックし、Barcode Server の起動またはデータリンクサーバーの起動をクリックします。

Barcode Server の設定

- Barcode Server またはデータリンクサーバーを設定するには、次のいずれかを行います。
 - ツールバーで、データリンク をクリックし、設定のプロパティを選択します。
 - 設定バーで、カッター設定のいずれかを右クリックするか、設定名の横にある矢印をクリックして設定のプロパティをクリックします。

Barcode Server またはデータリンクサーバーの設定のプロパティウィンドウで、カッターの状況を確認する時間間隔、Barcode Server またはデータリンクサーバーの自動起動および通信タイムアウトの時間間隔を定義できます。

Barcode Server の停止

Barcode Server の起動後、Fiery XF Cut Server から Barcode Server を停止することができます。

- 次のいずれかを行います。
 - 設定メニューで、Barcode Server の停止またはデータリンクサーバーの停止をクリックします。
 - バーの設定で、カッター設定のいずれかを右クリックするか、設定名の横にある矢印をクリックして Barcode Server の停止またはデータリンクサーバーの停止をクリックします。
 - ツールバーから、データリンクをクリックし、Barcode Server の停止またはデータリンクサーバーの停止をクリックします。

Barcode Server の使用

Barcode Server またはデータリンクサーバーを使用する Fiery XF Cut Server の裁断ジョブには、有効なバーコードが含まれている必要があります。切り取りジョブにバーコードがあるかどうかを確認するには、待機キューで切り取りジョブを選択し、ジョブ情報エリアのバーコード情報を調べます。

Fiery XF server は、画像、Barcode ID、バーコードおよびカットマークを含むプリントアウトに Barcode ID とバーコードを生成します。選択したカットマークとともに、関連するカッターの Barcode の Cut Marks Option オプションを有効にします。

プリント & カットデバイスの輪郭カット

プリント&カットデバイスは画像を印刷し、その輪郭を切り取ることができます。

Fiery XF Cut Server は、シンプルなカッターとしてプリント&カットデバイスをサポートしています。ジョブは、プリント&カットデバイスまたは他の種類の Fiery XF server 搭載プリンターを使用して印刷され、Fiery XF Cut Server を使用してプリント&カットデバイスで切り取ります。

輪郭カット用のジョブの設定

ジョブをプリント&カットデバイスに送信する際に切り取る輪郭線は、次の状態でなければなりません。

- ジョブがベクターオブジェクトである。
- 切り取る輪郭線には Fiery XF server でリストアップされているカスタムカラーを使ったストロークが割り当てられている。

特定のアプリケーションでのジョブ設定の詳細については、Fiery XF 用『Fiery Command WorkStation のヘルプ』を参照してください。

プリント&カットデバイスでのジョブの切り取り

- 1 輪郭カット用にジョブを設定します。
- 2 Fiery XF の仕上げ設定でプリント&カットデバイスをカッターとして設定します。
- 3 Fiery XF で、使用するプリンターに接続されているワークフローにジョブをロードします。
- 4 Fiery XF で、ジョブを処理して印刷します。
ジョブの印刷が終了した後に、ジョブの切り取り部分は自動的に Fiery XF Cut Server の待機キューに表示されます。
- 5 プリンターから印刷済み出力を取り出し、プリント&カットデバイスにロードします。
- 6 待機キューで切り取りジョブを選択し、ツールバーの送信をクリックします。
- 7 カッターのフロントパネルのコントロール機能を使用して、最初の自動レジストレーションマーク（マークがない場合は右下）にカットヘッドを合わせます。
- 8 OK をクリックして、輪郭を切り取ります。

付録

サポートされているファイルの種類

ファイル形式	拡張子	インポート	エクスポート
ネイティブファイル	.prt、.plt	(A)	(A)
プロット/切り取りジョブファイル	ジョブ	(A)	(A)

(A) - バージョン番号なしまたは使用不可。

キーボードショートカット

対策	Windows
ジョブの追加	Ctrl+O
ジョブの移動	Ctrl+M
ジョブのプロパティ	Ctrl+J
ジョブを別名で保存	Ctrl+S
ジョブの送信	Ctrl+P
キュー内のジョブをすべて選択	Ctrl+A
削除	削除またはバックスペース
設定の追加	Ctrl+N
設定のプロパティ	Ctrl+K
オンラインヘルプ	F1
ビューのリフレッシュ	F5

